



高島地域 住民自治協議会 だより【No.6】

コロナ禍が地域にもたらしたもの

コロナ禍により、日本中のあらゆるイベントが中止や規模縮小を余儀なくされました。当地域においても地域の晴れ舞台ともいえる「祭り」の大半が大幅な規模縮小となったり、寄り合いやイベント、行事などを自粛せざるを得ない状況となっています。

未だに収束する気配がなく、先が見えないコロナ禍の中で、各地域では多人数が集まる会合や行事などは、感染の拡大を懸念し、開催の可否の判断に迷われている地域もあると聞きます。今年も実りの秋を迎えますが、各地域ではさまざまな行事が予定されています。特に、文化祭は多くの地域で秋の恒例行事となっています。

当協議会では、各地域の文化祭の開催予定についてアンケート調査を行いました。この結果、開催すると答えた区・自治会は5地域で全体の約15%、中止すると答えた区・自治会は15地域で全体の約45%です。また、現在検討中は14地域で全体の約41%となっています。なお、調査結果は7月20日現在の状況です。

新型コロナウイルスにより、地域活動も制限されており、住民相互の理解や協力、お互いさまの関係が薄れてきているようにも思いますが、「サポートリングたかしま」は、誰もが安心して暮らせるまちづくりを皆様と一緒に考え、情報を共有しながら、地域や団体間の連携が生まれるよう取り組んでいきたいと考えています。



“サポートリングたかしま”では、区・自治会役員の皆様の負担を減らすため、下記サービスを行っています。ぜひご利用ください。

【相談サービス】

区・自治会運営においてチョット困ったことがあれば、ご相談ください。その場で解決できなくても、市内外の関係部門と連絡を取り解決の糸口を探ります。

【パソコン入力サービス】

区・自治会役員の皆さんで、配布資料や提出資料のパソコン入力に負担を感じておられる場合は、高島公民館2階の“サポートリングたかしま”におこしください。スタッフが入力のお手伝いをいたします。

【モノクロ・カラーのコピー（プリント）サービス】

A4モノクロ：1枚5円、 A4カラー：1枚20円

【原稿募集】

毎月発行している「高島地域住民自治協議会だより」に区・自治会、各種団体のPRやお知らせなどを掲載いたします。

団体PRやイベントの募集など、掲載のご希望がありましたら“サポートリングたかしま”にご相談ください！

9月の予定表

相談員

1	木		
2	金		
3	土		川島 清治
4	日		清水 良恵
5	月	お休み	竹中 寛
6	火	お休み	中村 真奈美
7	水		林 勝
8	木	住民自治協理事会	
9	金		
10	土		仁賀 定夫
11	日		廣坂 吉憲
12	月	お休み	
13	火	お休み	水谷 裕之
14	水		山田 善嗣
15	木		
16	金		
17	土		藪内 キヨ子
18	日		横田 久夫
19	月	お休み/敬老の日	井上 修三
20	火	お休み	河毛 悦男
21	水		中村 真奈美
22	木		
23	金	秋分の日	
24	土		川島 清治
25	日		清水 良恵
26	月	お休み	竹中 寛
27	火	お休み	仁賀 定夫
28	水		林 勝
29	木		
30	金		

サポートリングたかしま 高島地域住民自治協議会

事務所：高島市勝野670番地 高島公民館2F

開館日：☉・丹・★・水・木・金・土 (お休みは予定表をご覧ください)

相談時間：10時～13時 (相談員が待機しております)

開館時間：09時～16時 (パソコン入力などのお手伝いをします)

☎：090-2115-9055 (お越しの際は、まずはお電話下さい)

メール：takashima.juminzichikyoku@gmail.com

鹿ヶ瀬区紹介

絆を大切に、地域の活性化を図りたい！！

春に山々の新緑が映える頃、田上川沿いの桜、棚田の土手の三色の芝桜が出迎えてくれる鹿ヶ瀬は、初夏には美しい早苗田が、秋には稲穂が黄金色に、山々は紅葉し、冬には雪に覆われた山谷となります。四季を通じて自然の豊かさに魅了され、たくさんの人々が訪れる地域です。

その鹿ヶ瀬区には、現在世帯数36戸115人が暮らしています。区の主たる活動を中心に、中山間地集落協定・営農組合・浄願寺門徒・各種委員会などの団体活動が活発であり、地域の維持保全管理を行なっています。また、独自の催しを通じて区における協同の生活意識を高め、絆を強いものにしていきます。



最近2年間は、新型コロナの感染まん延の影響で実施されていませんが、毎年秋に行われる文化祭は、多くの区民が参加し、大いに盛り上がる一大行事です。

今年は、コロナの感染状況を見ながら、盆踊りを行おうと若手からの発案があるところです。

今後も各種団体の活動を区が支えて、さらに活性が図れるようにしたいと考えています。



高島地域の

コンナ話

あんな話

地域住民が守り続けた古代ロマンを秘めた古社

悠久の歴史を育む水尾の郷に鎮る古社 水尾神社（みおじんじや）の創建年月日は不詳ですが、元は現在の和田打川を挟んで、河北社と河南社の二社を総称して水尾神社とされてきました。

水尾神社（みおじんじや）

河北社は、伊勢湾台風で社殿が倒壊した為、ご祭神を現在の水尾神社に合祀しています。既に奈良朝時代（天平神護（てんぴようじんご）元年、西暦七六五）には、時の有力神社として朝廷より十三戸の氏子が与えられ、醍醐天皇（だいてんのう、西暦八九七）の延喜式の制には、東山道の神社三八二座のうち、最も位の高い官幣大社五座の内の二座（河北社・川南社）を占め、一年に四回、例祭を始め大祭には朝廷より奉幣（お供え）がありました。

御祭神は、高島南部地域を本拠とした三尾氏の祖先神である、第十代垂仁天皇（すいにんてんのう）第十皇子磐衡別命（いわつづくわけのみこと、出世・開運の神）と第二十六代継体天皇（けいたいてんのう）母君、振姫命（ふりひめのみこと、安産・子授けの神）の二柱をお祀りしています。殊に振姫命は、当社拜殿を産所として継体天皇をお産みになったとの伝承が残っています。

水尾神社は、歴代の天皇や武家からの厚い崇敬を享けながら地域住民が守り続けてきた神社です。八代將軍徳川吉宗は神輿を奉納、今も例祭で氏子が担いでいます。又、九代將軍徳川家重は本殿を再興しています。この本殿は平成二十五年、約二五〇年ぶりに氏子を始め、崇敬者の志納により再建され今に至っています。

忙しい毎日の合間に足を運んで頂き、暫し心を鎮めて古代のロマンに浸ってみてはいかがでしょうか。



注：平成八年には神社南面の斜景を利用した石庭が完成し、そのスケールの大きさと、一年を通して四季折々の植栽を満喫することができます。